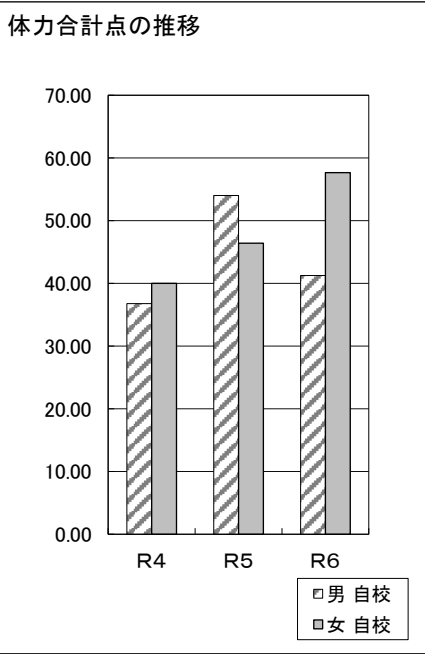
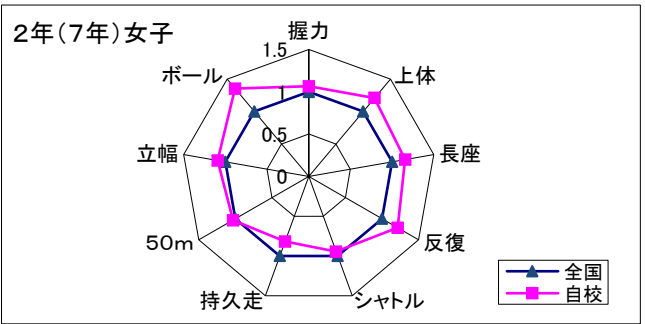
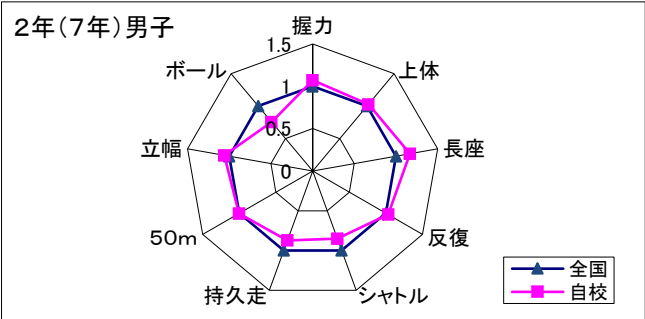


1 本校の実技結果と全国平均との比較

学年	性別		R6平均値									体力合計点		
			握力 (kg)	上体 (回)	長座 (cm)	反復 (点)	シャトル (回)	持久走 (秒)	50m (秒)	立幅 (cm)	ボール (m)	R4	R5	R6
2年	男	全国	28.91	25.82	44.32	51.49	78.65	411.68	7.99	197.16	20.49	40.90	41.18	41.69
		自校	31.00	26.50	51.75	53.00	67.00	463.75	7.95	208.75	15.50	36.80	54.00	41.25
		比較	○	○	○	○	△	△	○	○	△	△	○	△
	女	全国	23.14	21.47	46.44	45.67	50.48	309.90	8.96	166.22	12.32	47.28	47.08	47.22
		自校	24.67	26.00	53.67	55.33	47.67	366.67	8.67	181.67	16.67	40.00	46.40	57.67
		比較	○	○	○	○	△	△	○	○	○	△	△	○

※全国平均以上の種目…○ 全国平均未満の種目…△



2 重点種目の結果についての分析

呉市の重点種目	中学校区の重点種目 ※義務教育学校は、自校の重点種目	自校の重点種目 ※義務教育学校は、後期課程の重点種目
50m走	ハンドボール投げ	持久走
〈成果と課題〉 ・日々の授業の準備運動や補強運動の中で、もも上げなど短い距離を速く走るための筋力を高める運動に取り組む。 ・陸上競技(短距離走・リレー)の授業では、適切かつ効果的なスタートの行い方やゴール前に力を抜かないことなどを指導し、腕振りと脚の動きを調和させた全身の動きができるようにする。	〈成果と課題〉 ・小中での交流(生徒会主催)にて、球技(ドッジボールなど)の種目に取り組むなど、中学校区全体で楽しみながら投能力を向上することに努める。 ・球技の授業前の準備運動において、キャッチボールなどの運動に毎時間取り組むことで、投能力の向上に努める。その際、どうしたらより遠くにボールが跳ぶかを考えさせたり、動作を細分化して伝えたりするように工夫する。	〈成果と課題〉 ・陸上競技(長距離走)の授業において、自分に適したペースを守って走ることや、ペースを一定にして走することを指導した。単元後半にはタイム評価を設け、自分が可能な範囲で、タイムを向上させるための目標設定に取り組み実践した。その結果、自身の最高タイムを更新した生徒が6割を超えた。 ・運動部活動などで持久力を向上させる活動を行い、継続的に経過をみる必要がある。

3 生徒質問紙調査の結果及び分析

運動やスポーツをすることが好きな生徒の割合			朝食を毎日食べる生徒の割合			1週間の総運動時間が60分以上の生徒の割合		
男子	全国	90.3	男子	全国	81.7	男子	全国	90.3
	自校	100.0		自校	91.0		自校	100.0
女子	全国	76.8	女子	全国	74.5	女子	全国	78.1
	自校	92.0		自校	75.0		自校	83.0
〈成果と課題〉 ・本校では、ほぼ全員が運動部活動に所属しており、運動に対して肯定的な評価をしている生徒が多い傾向にある。 ・保健体育科の授業において、競技の内容の習得や活動量の確保だけでなく、仲間と関わる活動やスモールステップで達成感を味わう活動を設けることで、運動やスポーツに関心を持つ生徒を増やす。			〈成果と課題〉 ・朝食を摂取している生徒は全体の88%であるが、女子生徒が摂取していない傾向がある。 ・「食」の重要性(特に朝食がもたらすメリット)や、栄養のバランスを考慮したメニュー作りなど、食の大切さを食育の授業(栄養教諭)と連携して啓発し続ける必要がある。			〈成果と課題〉 ・ほとんどの生徒が、運動部活動に所属・参加しているため、一定の運動量は確保できている。しかし、部活動及び保健体育の授業以外の運動量が少ない。また、バス通学の生徒が多く、全体的な運動量が少ない。 ・家庭での運動量を確保するために、保健体育科授業や長期休業などの課題を通して運動を促していく必要がある。		